



春日新50年プランによるまちづくり

魅力ある春日の未来図を実現するため、(A)市民活動拠点の整備、(B)都市機能の向上推進、(C)歴史自然景観の整備の3つの視点(プラン)による都市づくりを推進していきます。



伐採した樹木を「市産材」として活用

市中央部エリア(ふれあい文化センターなどがある大谷地区周辺)に、市内の福祉施設などを移転集約した(仮称)地域共生交流施設の建設を進めています。

建設予定地の旧大谷ふれあい公園では、建設前の文化財調査に向けて、樹木を伐採しています。伐採した樹木の一部は、乾燥・製材し、「市産材」として有効活用します。

活用予定

▷新しい施設で使うベンチなどの家具の製作

▷緑の循環などへの理解を深めるため、小物を作るワークショップなどの開催

※材料の状態などで変更になる場合があります。

スケジュール(予定)

▷令和6年度 伐採、粗製材、乾燥

▷令和7・8年度 乾燥、製材

▷令和9・10年度 ワークショップ・家具製作



▲市産材を使用した家具のイメージ

○地球温暖化対策としての市産材の活用

木は、二酸化炭素を吸収して成長します。伐採した木を焼却などで処分すると、木の中に蓄えられた炭素が大気中に放出されてしまいます。木材として加工することで、炭素を木の中に留めておくことができます。

また、若く成長段階にある木は、古い木よりも多くの二酸化炭素を吸収します。新たな施設の横には、誰もが緑に親しむことができる広場を設け、新しい(若い)木を植えます。

こうした取り組みにより、地球温暖化対策と緑の循環も進めていきます。

問い合わせ先 経営企画課企画担当 ☎(584)1133 📠(584)1145 📠1014972

